

# 施工に関する注意

※現場の実情に合わせて適切な施工を行ってください。

 <b>警告</b>		死亡・重症を負う可能性が想定される	
<p>①屋根上の物置禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●葺き上げた屋根面には物を置かないこと。</li> <li>※下葺材の上に屋根材本体などを置くときは、滑り落ちないように固定すること。</li> </ul>			
<p>②屋根上で丸のこ等の使用禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●屋根上で丸のこ等を使用して切除加工作業はしないこと。</li> </ul>		<p>③部材の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●転落や部材の機能を損ねる恐れがあるので、棟包みなどの部材の上には乗らないこと。</li> </ul>	
 <b>注意</b>		重大な不具合又は、物的損害が発生する可能性が想定される	
<p>①潤滑時(降雨後等)における屋根材の取扱いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●保管時の湿気や雨水によりそのままでの施工ができなくなりますので必ず養生をしてください。</li> <li>●荷崩れが起きないように積み方にして湿気や雨水に気をつけてください。</li> <li>●屋根材の保管に際しては屋根の下で、雨水等があたらないように養生して保管してください。</li> <li>●屋根材を養生する際は通気にも心掛けて結露がおきないようにしてください。</li> <li>●施工中又は施工直後は濡れたままの状態では歩行すると本体表面が剥がれたり、ずれ落ちたりして修復が困難になる場合があります。</li> <li>●施工後は濡れた箇所の上に合板などを置くようにして濡れた箇所を直接触れないで歩行できるようにして、施工後は最低2日間様子を見て表面の湿気がないことを確認して歩行してください。</li> </ul>			
<p>②水切平部へのビス打ち禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●漏水の原因になりますので、水切などの平部部分には直接ビスを打たないでください。</li> <li>※隅棟水切Mを使用する場合は捨て板部にビスを打つため、取付後は必ずシーリング処理を施してください。</li> </ul>			
<p>③屋根上での注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●屋根上を歩行する場合、本体の上下の重ね目・谷部(パネル下半分)を踏んでください。</li> </ul>		 <p>※先端部を踏んでください</p>	 <p>※本体の高い部分や中程から後ろの部分は踏まないでください。</p>
<p>④強風時の施工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●強風時に万が一、施工する場合は屋根本体及び工具等を落させないように十分に注意してください。</li> </ul>			
<p>⑤補修キットの使用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●補修キットのベースコートは凍結厳禁です。5℃以上で保管して、屋根面が60℃以上の場合には使用を避けてください。</li> <li>●補修キットは止水するためではなく、あくまでも化粧処理の目的で使用してください。</li> <li>●施工中、屋根本体及び石付き役物を傷つけたり、石が剥がれたりした場合は補修キットで化粧処理を施してください。</li> </ul>			
<p>⑥専用ビスを使用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的に全て(本体パネル、付属の部材を含め)専用ビスで取付けてください。</li> </ul>		 <p>L=25mm</p>	 <p>L=38mm</p>